

初等教育学科初等教育コースにおける BYOD[ノートパソコン等の持参]について

教育学部初等教育学科
初等教育コース

初等教育学科初等教育コースでは 2022 年度入学生より、BYOD (Bring Your Own Device)を必須としています。BYOD とは、大学の学修において自分自身の（個人で購入をした）PC 等*1 を持参して用いることを指します。つまり、授業や自主学習、課題の実施に当たって PC やインターネット等が必要な場合、個人購入の持ち運びが可能な PC を活用することとなります。

購入に当たって、どのような PC (OS、性能等) が必要となるかについては、別途送付書類「学生生活に必要なパソコン・ネットワーク環境整備のお願い」の内容とスペック表をご参考ください。

*1 「PC 等」とは、ノート型パソコン、キーボードが付随したタブレット型端末等、持ち運びが可能なコンピュータを意味します。スマートフォンは含まれません

個人所有の PC であっても「Microsoft365 (Word、Excel 他) 等のアプリケーション」「キャンパス内無線 LAN」等の利用については、無償で大学がサポートをします。

○BYOD を推進する理由

(1) 自律的に学ぶ力を育成する

大学では、レポートや発表資料の作成、学習支援システム (LMS) を活用した授業、e-Learning を用いた自学自習等、日常的な学習活動においてパソコン等を活用しています。また、履修登録、教員とのメールによる連絡、レポート提出、就職活動等においてもパソコン等を活用しています。

こうした学修のあり方は、コロナ禍を経た今日、とりわけ重要となってきました。PC を活用して学ぶ力、ものごとを進める力は、大学での学びにとどまらず、今後オンライン・テレワークが当たり前となる 21 世紀の日本において、社会で活躍し豊かな人生を過ごす上においても必要な力です。

(2)GIGA スクールに対応できる教員養成を推進する

2023 年現在、日本の全ての公立小中学校に「一人一台」の PC と高速インターネット回線が導入されています。全ての教室には児童生徒分のノート (タブレット) 型 PC が設置され、授業・学習の必要に応じていつでも教室でインターネットに接続された PC を使うことができるようになっています。これを「GIGA スクール構想」と言います。

初等教育コースは、ほぼ全員が教員志望者であり、卒業時には 100 名以上の学生が教員として公立小学校に着任をします。「授業で PC が使えない」「児童生徒の PC 活用を指導、支援できない」では済まされない時代です。

こうした学校の環境に対応し、積極的に授業や校務等に PC を活用できる教員養成を推進することが求められています。そのためには、「いつでもどこでも」PC を使うことができる環境を整え、学生時代から PC を手元に置いて学びを進めることがどうしても必要だと私達は考えます。

以上